

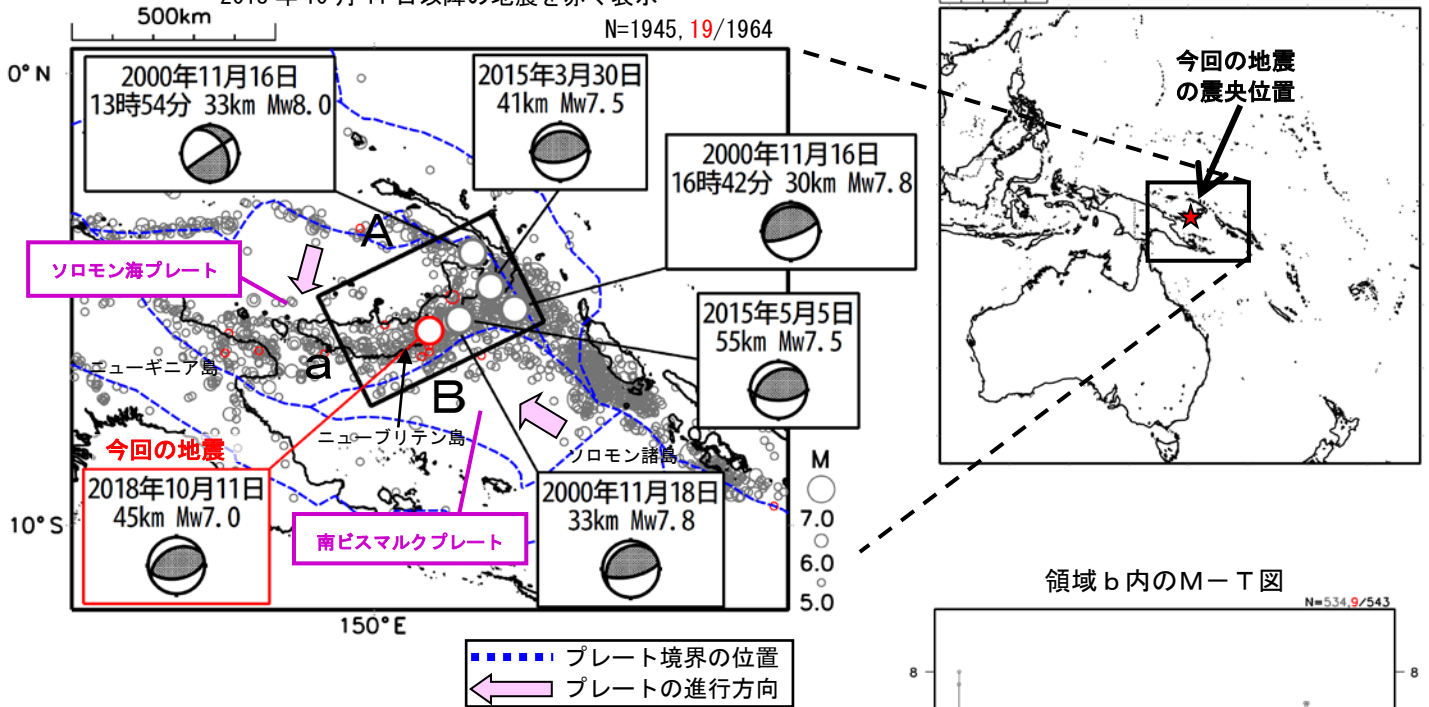
## 10月11日 パプアニューギニア、ニューブリテンの地震

2018年10月11日05時48分(日本時間、以下同じ)に、パプアニューギニア、ニューブリテンの深さ45kmでM7.0の地震が発生した。この付近には、ソロモン海プレートと南ビスマルクプレートの境界がある。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。気象庁は、この地震に対して、同日06時15分に遠地地震に関する情報(日本への津波の影響なし)を発表した。

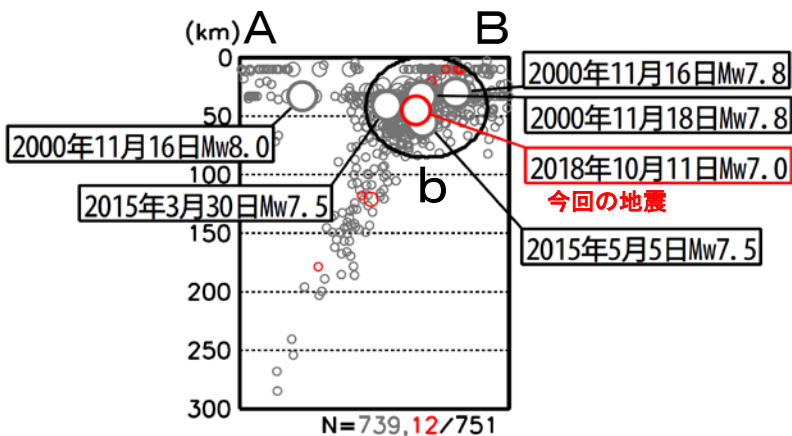
2000年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、M7.0以上の地震が度々発生するなど活発な地震活動がみられている。また、今回の地震の周辺(領域a)では、2000年11月16日にM8.0、M7.8、11月18日にM7.8の地震が連続して発生し、11月16日のM8.0の地震では、津波が観測され、死者2人のほか、住家に多数の被害を生じた。

震央分布図

(2000年1月1日~2018年10月31日、深さ0~300km、M $\geq$ 5.0)  
2018年10月11日以降の地震を赤く表示

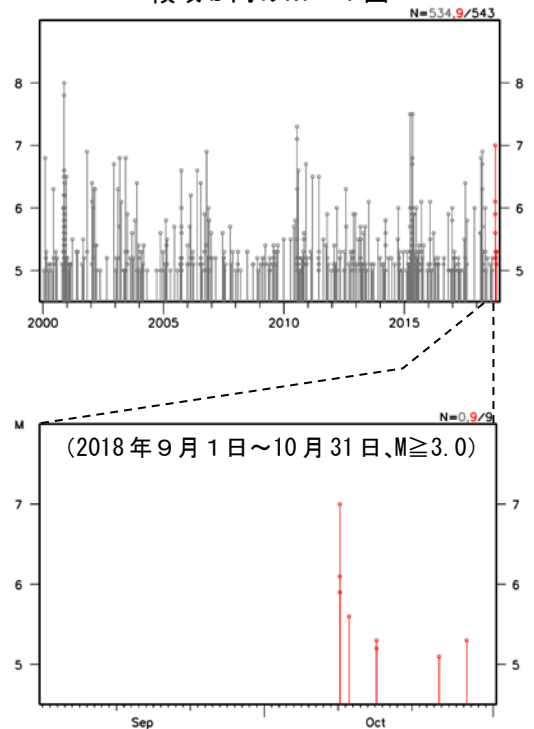


領域a内の断面図(A-B投影)



断層面で震源が線状分布しているのは、震源の深さを10kmまたは33kmに固定して、震源を決定しているためである。

領域b内のM-T図



※本資料中、2015年5月5日の地震及び今回の地震の発震機構とMwは気象庁、その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。また、2000年以降の地震の震源要素は米国地質調査所(USGS)による(2018年10月31日現在)。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)より引用。2000年11月16日のM8.0の地震の被害は宇津の「世界の被害地震の表」による。

\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.